

甲斐市立敷島小学校 自己評価書

平成31年2月8日（金）作成

校長 河西 慶仁

記述者 教頭 今村 洋仁

学校教育目標

「知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かな子どもの育成」

- ① 確かな学力を身につけた子ども
- ② 心の豊かな子ども
- ③ 明るくたくましい子ども

学校経営方針

- (1) 全職員は、児童・保護者・地域の実態を的確に把握して、学校教育目標の実現に向けて努力する。
- (2) 「生きる力」をはぐくむ適切な教育課程の編成と実施に努めるとともに、学習指導要領に則り、指導計画の改善と充実に努める。
- (3) 教育活動を推進するにあたり、常にPDCAに基づいた振り返りと改善を行い、その充実に努める。
- (4) 授業時数を十分に確保し、指導内容・指導法の工夫などにより学習の基礎・基本の定着を図る。
- (5) 言語活動の充実と活用型学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力の向上をめざす。
- (6) 体験学習を重視し、地域の人・文化・自然等の教育財産の活用を図り、自ら学ぶ意欲や共に学び合う態度の育成及び実践力の向上に努める。
- (7) より深い児童理解に努め、指導方針や内容の共通理解を図る中で適切な生徒指導にあたる。
- (8) 特別支援教育についての啓発を図り、個々のニーズに応じた適切な指導が行える校内体制の充実に努める。
- (9) 家庭や地域社会との積極的な交流体制の充実に努め、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりをめざす。
- (10) 学習環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと、健康・安全教育を推進する。
- (11) 教職員の資質の向上を図るとともに、職員の長所を生かし、協働して教育活動に専念できる職場づくりに努める。

1 全体評価

- ・ 本校では、学校長が折にふれて学校経営方針について教職員に周知する機会を設けていることもあり、教職員によく理解されていることがうかがわれる。そして、それに向けて一年間を通じて教育活動や分掌処理に努めていることで、教育活動（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）全般にわたって、教職員・児童・保護者から、ともに肯定的な結果が得られた。このことから、敷島小学校の学校評価に係る総合評価は概ね良好な水準にあると考えられる。しかし、部分的には少数であるが課題点もあり、項目ごとに順次対応していく必要がある。すべての項目を100%に近づけるため、見落とししたり軽視したりしがちな項目について再確認し、一つ一つ丁寧に対応していく必要がある。全職員の共通理解のもと、今後もPDCAサイクルにしたがってさらなる改善に努めていくことが必要である。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の「学校は、楽しいところであるか」という設問に対して、児童・保護者ともに9割以上が肯定的な回答を示しており、学校生活への満足度がうかがわれる。 ・本校職員による自己評価からは、日常の教育活動が学校教育目標や重点目標を踏まえ、実態に即した教育実践になっており、教職員が同じ方向を向いて取組を行っていることがうかがえる。 ・本校ではPDCAサイクルによる教育活動の推進について、学校組織として取り組んでいるという意識は高い。しかし、教職員一人ひとりの取組について見てみると、さらに高い目標を目指したいという意味で改善の余地があると感じている職員がいる。 ・職員による職場の福利厚生や健康管理についての評価は、肯定的なものが多いが、他の項目に比べると評定の平均値は低い。業務多忙化が、その一因になっていることが考えられる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は児童にとって安全で楽しいところではなくてはならない。「学校は楽しいところであるか」の設問に対するアンケート結果は児童・保護者ともに92.5%の高評価であるが、「あまり楽しくない（25人）」「楽しくない（3名）」の回答もあり、決して見逃すことはできない。各学年の実態や状況に応じてその原因を確認し、職員全体で情報共有を行い、保護者と連携しながら継続的に丁寧な対応を行っていく。 ・児童にとって学校生活で過ごす時間の大半は授業であるため、よくわかる授業を行うことは極めて大切である。学ぶ楽しさやわかる喜びを実感し、基礎的・基本的な内容が着実に身に付き、発展的な内容にも取り組んでいけるような教育課程の編成や授業改善に今後も継続して取り組んでいく。 ・教職員の授業指導力や生徒指導力が高まれば、児童の行動は安定し、落ち着いた学校生活を送ることができる。積極的に校内研修を行い、学校経営方針にある教職員の資質向上を図っていく。 ・教育活動に対する学校評価を的確に行い、学校関係者評価で得られた結果について全職員できちんと情報共有して、PDCAサイクルにしたがって対策を講じ、学校改善を行っていく。 ・学校は様々な校務を分担して行っているが、それに対する自己目標を立て、計画立案・実践・評価・改善という組織マネジメントを教職員一人ひとりが担当する校務分掌活動でも行っていく。 ・職場の福利厚生の充実や健康管理の向上を目指して、現在、業務多忙化の改善に取り組んでいる。会議の効率化や事務処理の簡素化、勤務時間の管理の徹底等をさらに推進し、教職員がゆとりを持って職務にあたる中で児童と向き合う時間、自分自身と向き合う時間の確保に努めていきたい。
II 学校運営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内外の施設設備の定期点検や日常の点検結果に基づく修繕等については、老朽化傾向にある体育館、南館、西館、校庭等を中心に、大規模改修工事で新しくなった北館も含めて日々の点検を行っている。職員の意識も高く、事故防止にも積極的に取り組んでいる。しかし、危機管理、特に不審者侵入に関しては、学校施設の状況（門扉の施錠や防犯設備）に引き続き課題がある。 ・個人情報保護・情報セキュリティ・諸表簿や文書、記憶媒体の適切な管理・活用については、管理職からの注意喚起の機会を定期的に設けており、職員の意識の高さが保たれている。 ・職員会議や校内での研修には、積極的・主体的に関わっている職員が多く、他の職員との相互理解や信頼関係を深めながら「報告・連絡・相談・確認」といった連携が適切にとれている。 ・今年度は、北館の大規模改修工事が行われたため、教育活動を展開する上で、不都合を生じている面もあったが、児童の安全を最優先して日々の活動に取り組んでいる。

改善策	<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での事故防止に向けて、細部にわたる安全点検と迅速な改善を今後とも継続的に行う。担当による定期的な点検に加えて見落としがないように管理職が校内巡視をする機会も増やしていく。 ・児童を危険から守るという点で、交通事故防止や水難事故防止、熱中症対策、有害紫外線対策、感染症対策等に関わって、児童に対する安全教育の徹底を引き続き図っていく。特に、水泳シーズン当初での着衣泳指導は、継続して行い、児童たちの水による事故防止の意識をさらに高めていきたい。 ・日々の危機管理については、継続的にマニュアルの見直しを行ってきているが、細部の確認を今後もしていく必要がある。地震・火災・不審者侵入等の様々な設定での避難訓練や事前予告なしの避難訓練等をもとに児童の安全な行動の取り方や対処法、避難場所・避難経路の確認なども実践的に実施していく。今年度も敷島地区合同引き取り訓練を実施したが、さらに近隣の学校や保護者、地域、関係機関と連携しての実効性の高い防災訓練と防災教育を積極的に実施する。 ・不審者の侵入防止については、業者等の出入りで北門の開閉が頻繁にあり、開放状態になる危険性が高いため、防犯カメラのチェックやインターホンの活用を確認を今後さらに徹底していく。 ・校務分掌の整備と各学年や分掌間の連絡調整と情報交換を緊密に行う。また、分掌分担は、個々の能力、実績、意欲を加味し、適材適所に今後も配置する。 ・甲斐市からの研究指定を受けて以来、敷島中学校区4校による連携をテーマとした研究に取り組んでいる。あいさつ運動・児童生徒及び職員の交流や合同校内研究、授業・行事の参観、出前授業等を通して得られた小中連携の成果を積極的に今後も日常の教育活動に生かしていく。
Ⅲ	学習指導について
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導において「学びの意欲を喚起する、基礎基本の定着を図る、個に配慮した授業の実施」等については、教職員の自己評価が高くなっている。これは校内研究等で組織的計画的に取り組んでおり、教職員一人ひとりが絶えずその意識を持って取り組み、授業の中で学習の目標を明確にし、個に応じた指導の工夫を心がけている成果であると考えられる。 ・児童に対するアンケートで、学習面では、「学校の授業が楽しいか」という設問に対して89.8%の児童が肯定的な回答をしているが、一方で7.6%の児童が「楽しくない(あまり楽しくない)」という回答をしており、改善の余地が残っている。 ・「先生はよく勉強を教えてくれるか」という設問に98.9%の児童が肯定的な回答であり、「学校は熱心に授業に取り組んでいるか」という設問に、9割近くの保護者が肯定的な回答を示している。 ・「授業の内容(国語・算数)が分かるか(分かっているか)」という設問に対する回答は、95.5%(93.8%)という肯定的な回答が非常に多かった。 ・授業中の質問や発言についての設問では、教師と児童の回答に差があり、教師は、質問や発言が出るように配慮した授業を行っているが、質問や発言がなかなかできない児童が全体で36.8%いる。 ・宿題の取組状況は、92.4%の児童と97.2%の保護者が肯定的な回答だった。宿題は忘れずに取り組んでいるが、自主学习となるとその目標時間である「学年×10分+10分」の目標に達していない児童が全体で15.3%、保護者目線で見ると22.6%いることがわかる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して校内研と関連させ、子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学習態度の一層の育成を図っていく必要がある。そのために、授業の見直し・振り返りとわかりやすい授業の展開、授業の中に話し合いや発表活動を設け、体験的な学習や問題解決的な学習、言語活動等を位置づけるようにする。 ・授業の形態を一斉授業だけでなく、ペア学習・小グループ学習・班学習、習熟度別学習等、TT等を効果的に活用しながら一人ひとりの児童に目を向けた授業をさらに推進していく。 ・限られた予算を有効かつ最大限に生かし、情報設備・視聴覚器具等の設備の充実を心がける。

	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの主体的な学習態度の育成については、自己評価や相互評価などの多様な評価から、自分自身の良さや成長の様子を積極的に評価することにより児童の学習意欲を一層引き出していく。 家庭学習については、発達段階に応じた学習内容と学習量を考える中、お便りや日常の連絡等を活用しながら、家庭と連携して少しずつ習慣化させていく。また、学年が上がるに従って、質の高い自発学習に取り組む姿勢を身につけさせるために、継続して「自学のすすめ」の取組を積極的に行い、家庭の協力を得て具体的な指導をしながら主体的な学習習慣を身につけられるよう指導していく。
IV	生徒指導について
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解に関する設問で、教職員は「児童理解のためのコミュニケーションを図っている」に対して全員が肯定的な評価をしているが、保護者・児童の「相談できる先生がいますか」の設問に対して、否定的な回答をしているものが児童・保護者ともに25.1%いる。この感覚の乖離は注目すべき点であり、児童や保護者目線で考えるための具体的な方策を検討する必要がある。 「児童に規範意識を育む」という設問では、教職員は肯定的な回答が多く、児童も「きまりを守る、清掃活動や委員会活動にしっかり取り組む」という設問に対して9割以上が肯定的な回答をしている。教師の指導が児童に良く反映されていることがわかる。 「将来の夢や希望を持っていますか」の設問に対し、多くの児童と保護者が肯定的な回答をしているが、10.2%の児童と17.2%の保護者が否定的な回答になっている。 本校でもいじめに関しては、何件かの事案を2学期までに確認している。多くは「冷やかし、からかい、悪口」といった態様であるが、そのすべてが、被害者・加害者の納得のもとに解消もしくは経過観察等の一定の改善が図られている状況にある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から学級経営の充実を図るとともに、児童理解については、カウンセリングマインド（受容、人格の尊重、共感的理解）の手法での対応で児童との信頼関係を深めていく。 規範意識や思いやりの心などの育成は、道徳の時間を要とし教育活動全体に位置づけて継続的に行う。特に、集団宿泊体験、自然体験、奉仕体験など経験を通して道徳的実践力の育成を図り、さらに地域の人々や高齢者、障害者との交流を促進していく。 合同校内研等の小中連携の研究を生かし、敷島地区および本校児童に期待される道徳的実践力、不足していると思われる内容項目について検討し、授業改善に努めていく。 家庭との情報交換や教育方針の共有を一層図るとともに、学習や生活上の個別相談、あるいは家庭訪問等により問題が生じた場合の早期対応、早期解決を図る。その際、必要に応じて、SC（スクールカウンセラー）SSW（スクールソーシャルワーカー）などの専門家や教育委員会といった関係機関との連携を今後も推進し、チーム学校として組織的な運営を行っていく。 望ましい勤労観や職業観の育成や社会で自立して生きる力をはぐくむため、教育活動全体にキャリア教育（基礎的・汎用的能力：人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の育成）を適切に位置づけ、自然体験や社会体験等の活動を充実させるとともに学年や個の発達に応じた指導を継続的に行っていく。また、家庭や地域と連携して、働くことの意義や喜び・やりがいを理解し、家の手伝いや地域の奉仕活動等への参加促進を図る。
V	地域との連携について
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 「地域との連携」についての設問では、教職員は肯定的な回答がほとんどである。教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、様々な面で多くの支援を得て教育効果を高めている実態がある。 P T A活動への参加意識は、教職員も保護者もほとんどが肯定的な回答で、P T A役員を含めた保護者全体において91.2%となっている。 学校からのお便りやホームページを通した広報活動についての設問は、教職員の回答は非常に高く、それを受けて教育活動の様子がわかるという保護者が86.1%となっている。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの教育に対して、学校・家庭・地域はそれぞれが役割を担い、責任を持つ必要がある。学校におけるPTA活動についても、保護者に主体的に関わってもらうことが不可欠だと言える。今年度も本会役員、専門部委員等を中心に協力をいただき、学校行事や学年行事等を予定通りに実施することができた。今後も学校からの広報活動を推進し、組織体制で活動に取り組めるよう努め、これまでの成果を生かして、引き続き参加意識の高揚と参加機会の確保を図っていきたい。 ・児童の学習支援や学校環境保全、安全安心の確保など地域と一体となって教育活動を展開することにより、児童の学習環境を整え、学習意欲を喚起できるように努めていく。また、学校内外のそれぞれの専門性を生かしたチーム学校を実現するために地域の教育資源の活用と整備を一層推進し、教師と児童の向き合う時間をさらに増やしていきたい。 ・地域とともにある学校づくりを目指し、学校の教育活動や学校運営の状況について積極的に情報を発信し、学校への理解と支援を得られるように、今後もホームページやお便りを十分活用できるように努めていきたい。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶に関連して、教職員は「進んで挨拶するよう、指導に努めている」という意識が高く、子どもたちも地域の方への挨拶についての意識は89.4%の児童が肯定的な回答を示している。 ・保護者に対する設問「学校は音楽活動に力を入れて取り組んでいると思う」に対し、94.2%の保護者が肯定的な回答を示した。本校の全校合唱、音楽集会、合唱部の活動等の音楽活動が、地域や保護者によく理解されていることがうかがえる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の挨拶への取組について共通理解を図るため、職員会議・終礼をはじめ、すこやか委員会（児童たちへの支援や指導の在り方を検討する会）等で確認しながら、日常生活の中で常に指導に努めてきた。このような取組を今後も継続し、挨拶がさらにしっかりできる児童の育成を目指していく。 ・小中連携に関する取組で、あいさつ運動を行い、甲斐市教育委員会指定事業の取組を継続して行ってきた。創甲斐教育や学校独自の取組に加えて、地域での取組も今後推進していきたい。 ・本校の特色でもある異年齢グループによるファミリーグループの活動は、放課後や週末における地域での異年齢集団の活動の減少を考えると、学校の教育活動として、欠かすことのできない活動であると捉えている。児童会を中心に活動形態や内容の工夫を児童と考え、仲間づくりや思いやりの心を育み、その活動が日常化できるようにさらに活動を活発化していきたい。 ・本校は音楽活動に力を入れて取り組むための柱として音楽集会・ドレミファタイムや合唱部の活動がある。これらの活動は学校集団への所属感と学校への誇りと愛着を育む活動として、本校の大きな特色となっている。これらの活動を通して、子どもたちがお互いのよいところを認め合い、高め合えるように、今後もその活動をサポートし、積極的に推進していきたい。 ・日々の清掃活動に「無言清掃」を取り入れ、取り組んできた。勤労意欲を維持し、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を目指して、師弟同行で今後もこの活動をさらに推進していく。
<h3>3 まとめ</h3> <p><今後一層充実させていきたい事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・地域の実態や学校評価に基づき具体的でわかりやすい目標を児童・保護者と共有し、取り組む。 ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組み、子どもたちの積極的な学びを目指す。また、授業では、ねらいの明確化や教材や教具を工夫した指導、指導と評価の一体化を推進していく。 ・保護者や地域の声を様々な場面で学校運営に生かし、学校の課題解決に向けた取組を行う。 ・保幼小連携や小中連携を推進し、個々の児童への切れ目のない支援・指導を継続的に行っていく。 	